



千畳のナメを独占

## 奥秩父 笛吹川 東沢釜ノ沢東俣

福永

【日時】 2010年7月31日（土）～8月1日（日）

【メンバー】 L 福永、坂井

簡単でメジャーなところに2人で行ってみようと坂井さんと釜ノ沢で意気投合した。会長はじめ先輩達から温かい助言を沢山頂戴し安心しての出発となった。

7月31日（土）

駐車場で釜ノ沢に行くという慣れた様子のご夫婦を見送り、7時過ぎにようやく出発。

東沢へ降りてからのショートカットで少し迷い、ホラノ貝のゴルジュを巻く林道入口を間違えて鶏冠尾根に取り付いてしまい、戻るのに1時間もロスしてしまった。入渓点の山の神に到着した時にはかなり疲れてしまっていた。それでも乙女ノ沢、東のナメ沢、西のナメ沢がでてくると喉を潤し、青白く透明な水流に引き込まれそうになるほど綺麗な流れに癒され元気がでた。金山沢の二俣



を右に入ると、まもなく魚留滝 12m が現れた。ここは倒木を利用して右岸スラブをあがる。私が倒木を押さえ坂井さんが先にあがり、お助け紐を出して貰った。自分達だけでロープを出すのは初めてで少し緊張したが楽しかった。さてハイライトの 50m にも及ぶ千畳のナメは写真をとりながら気分良く通過。こんな有名なところに誰もいないのが不思議なくらいだった。1771m 付近に 14 時に着いていたら小屋まで行ってしまおうと話していたが、両門ノ滝に着いた時に 14 時になってしまっていた。休憩をとっていると空は暗く小雨がちらついて肌寒く心細い感じになってきた。これは完全に野営だねと話していたら、ソロの男性と軽装なご夫婦がひょっこりやってきた。なんとソロの男性は顔見知りの方だった。誰にも会わず 2 人で少し心細くなっていたので知り合いにあい元気になった。聞くとソロの方は 10 時のバスで来て小屋まで行くとのこと。軽装のご夫婦は日帰りするとのこと。なんとなくソロの方の後を追う形になり、両門ノ滝もつられて左岸脇を巻き気味に一気に通過。ここはピンクテープを辿ると大高巻きになってしまうところだった。マヨイ沢を確認してヤゲンの滝は灌木伝いに簡単に左岸をあがり、



次の6m滝はフリーで慎重に右岸を登る。広河原になり幕場適地の台地が見えてきた。15時になっていた。小屋まであがるというソロの方と別れ、私たちはここで幕とした。慣れない手つきでシェルトとタープを張り、幸いにも小雨も止み、火をおこし大満足の一夜の宿となった。

8月1日(日)

倒木で荒れた沢をしばらく行くと4段階段状のナメ滝が現れ左岸を丁寧に登る。後ろに4人組が見えた。昨夜は気がつかなかったが幕場も近かったのかもしれない。ガレに埋まるミズシ沢の二俣を右手にとり、荒れたナメをどんどん行くとさらに二俣となる。消えそうな円盤の表札を確認して右へ入る。谷が狭まり2000m程になると高山の花々が満開で迎えてくれた。さて木賊沢の出合に到着。最初、一番右のザレ場が木賊沢だと勘違いしてその中間部をあがってしまった後、左奥が本流だと気が付き戻る。木賊沢と本流の中間部にははっきりした踏み後があり簡単に抜けられた。あと少しと安心していたら、右手にピンクテープを発見。ここをあがるとポンプ小屋かなと思ひ、尾根に上がってしまった。先にテープは無いし、後ろの4人組がついてこないことから間違えたことは確信したが、尾根に上がってしまったからには真つすぐ行けば小屋のはず。少し尾根を詰めると左下にトラバースの踏み跡が見え、人の声も聞こえてきてほっとする。小屋番Kさんと4人組がポンプ小屋で立ち話をしているようだった。わざわざ尾根に上がってからポンプ小屋へ降りてきたとはまたまた遠回りをしてしまった。小屋には10分で到着。オーナーの徳ちゃんこと山中さんから、またブドウ沢で事故があったと聞いてびっくりした。山の向こう側で記者が遭難したとのこと。下山も気を抜かないでねと励まされ徳ちゃん新道を一気に下った。ガイドブック3種類(最新のもの是一部コピーを忘れ、古い物を頼ってしまった)やピンクテープに惑わされてしまった珍道中であったが、新人2人だけで達成できたこと、忘れられない山行となるであろう。

【グレード】1級上

【地形図】金峰山

【行程】

7/31 西沢溪谷入口駐車場(7:10)～  
山ノ神(10:35)～千畳のナメ(12:50)  
～両門ノ滝下(13:45)～1771m付近(15:00)  
8/1 幕場(7:15)～木賊沢出合(9:25)  
～甲武信小屋(10:50～11:30)  
～西沢溪谷入口駐車場(14:30)

